

# 祝 94 回都市対抗野球大会東京都二次予選第一代表決定

創部(1958年)以来 65 年の偉業東京都第一代表

4 年ぶり 7 回目の出場

序盤 8 点の大量リードが功をなす



第一代表旗と共に記念撮影

JR 東日本	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
明治安田生命	3	2	0	3	0	0	0	0	X	8

## バッテリー

JR 東日本 ●高山(1回 1/3 失点 5)・市川(2回 1/3 失点 1)・川西(1回 1/3 失点 2)  
石井(2回 0/3 失点 2)・山崎(2回 0/3 失点 0) — 渡辺・草部

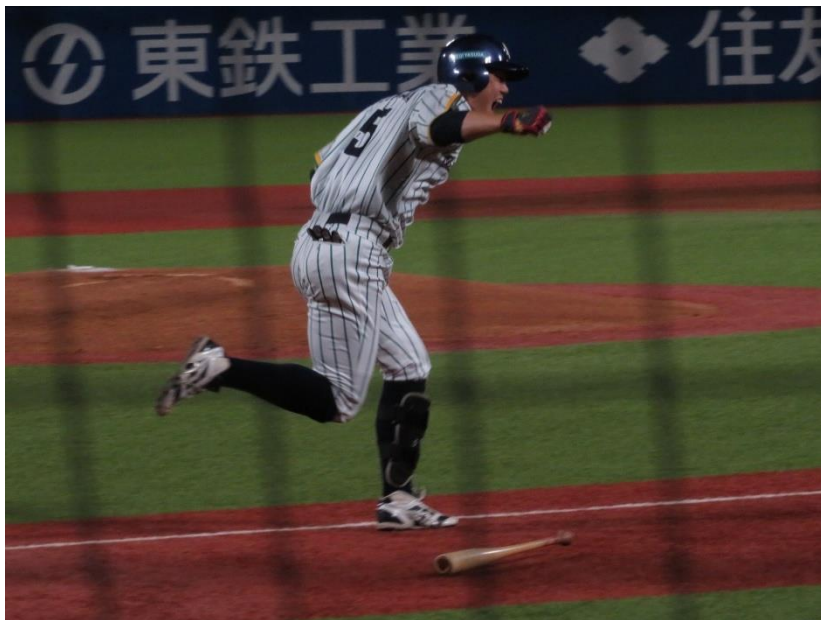
明治安田生命 ○竹田(5回 失点 0)・三宮(2回 1/3 失点 2)・小玉(0回 1/3 失点 0)・  
石毛(0回 1/3 失点 0)・中崎(1回 失点 0) — 森川

二塁打 泉澤 (1回 2 打点)・(4回満塁・走者一掃 3 打点) 2本 ・森川(2回)  
明治安田生命

試合は強打の JR 東日本初回 1 番レフトへヒット、2 番四球で出塁、無死 2 塁・1 塁の大ピンチも 3 番打者の強烈な 3 塁ライナーを 3 塁手橋内しっかり捕球後速やかにセカンドへ送球ダブルプレーで一瞬にしピンチを凌ぐも 4 番のセカンドゴロを二塁手新城が弾き 2 死 2・1 塁も 5 番を竹田投手は三振に打ち取り得点を与えず。

ピンチの後にチャンスあり野球の格言そのまま明治安田は 1 番橋内レフトへヒット 2 番新城レフトフライ 3 番福岡レフト前ヒット、1 死 2・1 塁。4 番森ライトフライ 5 番永廣レフトへタイムリー先取点、6 番泉澤 2 ボール 2 ストライクからライト線に 2 点適時二塁打 3 点目。7 番高瀬三振。初回繋ぐ攻撃で幸先良い 3 点。

続く 2 回も森川のライト戦へ二塁打と 1 番橋内のタイムリー、3 番福岡のタイムリーで 2 点追加。4 回敵失と 2 四球で 2 死満塁とし 6 番泉澤が前打席に続いてレフト線へ走者一掃の 3 点二塁打で 8 点目を挙げる。



4 回 2 死満塁レフト線へ走者一掃の 3 点二塁打泉澤選手

以降投手戦となり硬直状態が続く 6 回から竹田に代わり三宮に継投。8 回 2 安打され 1 死後小玉投手へ継投後 1 塁手エラーで 1 死満塁 8 番押出の四球で 1 点献上後

9番三振なお。2死満塁。1番に四球で2点目、投手小玉から中崎へスイッチ中崎後続を三振に打ち取り9回三者凡退。野手とベンチから選手たちがピッチャーマウンドに歓喜の声で集まり勝利を確認した。

打順	守備	氏名	打数	安打	死四球	三振	打点	得点	犠打
1	三	橋内	4	3	1	0	1	3	0
2	二	新城	4	0	0	0	0	0	1
3	一	福岡	5	2	0	1	1	1	0
4	左	森	4	1	1	1	0	1	0
5	中	永廣	4	2	1	1	1	2	0
6	右	泉澤	3	2	1	0	5	0	1
7	游	広瀬	4	0	0	1	0	0	0
8	捕手	森川	3	1	1	0	0	0	0
9	指名	日置	2	0	0	1	0	0	1
	指名	鈴木	1	0	0	1	0	0	0
			33	11	5	6	8	8	3

第一代表戦の応援は吹奏楽が加わり応援団とチアガールでスタンドの応援席を活発に導いていた。根岸会長も応援タオルで声援を送り勝利をよろこんでいた



根岸会長も社員と一緒にタオルを掲げてフレ・フレ明治安田

都市対抗野球大会東京都二次予選第一代表獲得は岡村監督の「守りの野球の徹底」

を今シーズンからヘッドコーチに赴任された新谷コーチの指導が実ったと聞き及んでおります。先ず投手のコントロールの強化が実を結んだ。従来は1試合5四球あり大量得点を与えるケースが見受けられ敗戦するケースが多くあり4年間都市対抗野球大会東京都二次予選を突破することができなかった。今シーズンは先に記述した通り東京都企業春季支部大会優勝するとともに各地方大会でも決勝トーナメント進出するようになった。投手力を増すことで打撃陣も繋の攻撃が多くなり得点の機会が増えた。



最優秀賞 泉澤選手



優秀賞 竹田投手

2023年6月1日

土田唯雄